

都道府県名	奈良県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	奈良市立若草中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	4	17	37
生徒数	152	146	187	6	491	

研究の概要

1 研究主題

習熟度別少人数分割授業を通しての学力向上

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1 年生・国語（国語力の向上が今後の学習に影響すると考えたため。）</p> <p>2 年生・英語（習熟の程度に差が出始める2年生で、差を小さくできると考えたため。）</p> <p>3 年生・数学（基礎を丁寧に学習することで、進路に役立つと考えたため。）</p> <p>個人内評価を行いながら、絶対評価のための評価規準の確立。および、自分の伸びを確認するような自己評価の充実。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

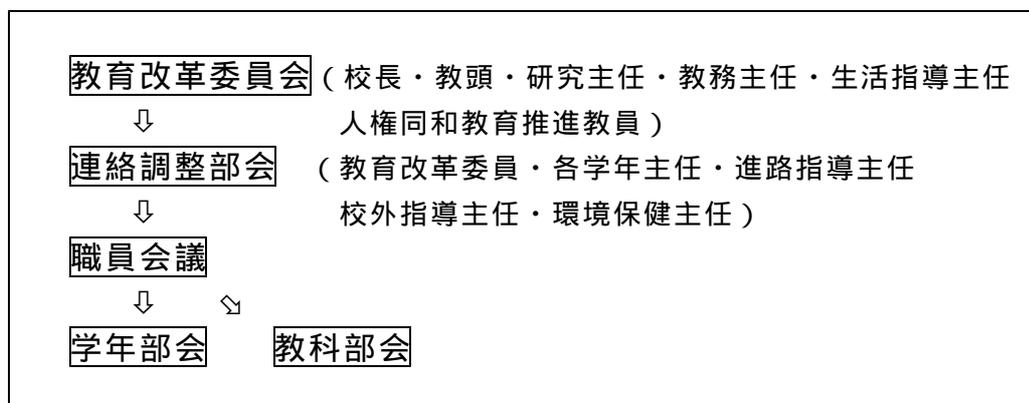
平成14年度	<p>テーマ 各実施教科のすべての授業を習熟度別集団で実施し、一人一人の学力を高める。</p> <p>研究の見通し 前年度授業数の半分だけを習熟度別集団で実施してきたが、年間を通しての取組がより効果を上げる。</p> <p>研究内容・方法 1年国語、2年英語、3年数学の年間すべての授業において、個人選択制の習熟度別集団で学級を二分割し、別教室でそれぞれ1人の教員が指導を担当する。年間5回選ぶ機会を作る。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 習熟度別少人数授業の評価</p> <p>研究の見通し 評価を工夫することにより、生徒に意欲をもたせられる。</p> <p>研究内容・方法 目標に準拠した評価のための評価規準とともに、生徒が自分の伸びを確認できる個人内評価を充実させる。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 個に応じたカリキュラムの作成</p> <p>研究の見通し 3年間のノウハウの中から、個（クラス）に応じたカリキュラムを作れば、より効果的に学力を高めることができる。</p> <p>研究内容・方法 評価方法や、定期テストの持ち方などの課題はあるが、同じカリキュラ</p>
--------	---

ムを違う教え方で指導する方法を抜け出し、個に応じた指導を行う。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

研究指定を受け、2年目を迎えた今年度、「習熟度別少人数授業」も定着しつつあるが、それ以外にも「学力向上」に向けての様々な取組が行われた1年であった。その中でも、特に今年は「授業」と「評価」について各部署で研究と実践がなされた。

習熟度別少人数授業が定着してきた中で、「しっかりコース(ステップアップコース)」の人数が、わずかではあるが、増加傾向にあることは、「ゆったりコース(ウォーキングコース)」の授業にとってはプラスとなっている。

2003年度 各学年のコース人数表

コース		編制時期	1学期		2学期		3学期
			最初	中間後	始め	中間後	始め
1年国語 (4クラス)	ゆったり		78	75	58	66	
	しっかり		75	78	95	87	
2年英語 (4クラス)	ゆったり	93	91	87	82	80	
	しっかり	52	54	57	64	67	
3年数学 (5クラス)	ウォーキング	112	93	91	94	107	
	ステップアップ	77	96	98	95	82	

単位 人

「少人数分割授業のアンケートの結果」を見ると、「教科の力がついたと思うか」という問いに対し、「とても思う」「少し思う」と回答した生徒は次の通りである。

2001/2学期	2002/1学期	2002/2学期	2003/1学期	2003/2学期
38%	44%	38%	63%	46%

この表から、若干上昇していることがわかる。

他のアンケート結果の内容を見ても、習熟度別少人数授業への生徒の期待は大きなものがある。

生徒は分割授業に対して、「分割授業がよい」「他の教科でもしてほしい」と思って

いる割合が高く、「しっかりコース(ステップアップ)」「ゆったりコース(ウォーキング)」とも6～7割に達している。また、「教科が好きになった」も徐々にではあるが増加している。

(分割授業のアンケートから抜粋)

単位 %

アンケート内容		実施時期		2002		2001	
		2003 2学期	2003 1学期	2002 2学期	2002 1学期	2001 2学期	2001 1学期
全体 授業 と 比べて	絶対に分割がよい	34	30	19	23	19	14
	まあ分割がよい	38	44	27	36	27	30
	どちらともいえない	21	21	43	32	43	43
	全体がよい	5	3	7	4	7	9
	絶対に全体がよい	2	2	4	5	4	4
分割 授業が 増えたら よい	とても思う	33	31	17	19	17	16
	少し思う	29	32	30	30	30	23
	どちらともいえない	23	24	31	27	31	28
	あまり思わない	9	6	16	14	15	24
	全く思わない	6	7	6	10	7	9
この 教科 が	好きになった	11	16	8	11	8	
	少し好きになった	24	28	23	21	23	
	変わらない	56	50	58	56	58	
	少し嫌になった	4	3	6	6	6	
	嫌になった	5	3	5	6	5	

「わかる授業」「ともに学ぶ授業」を目指して、全教職員の参加による研究授業を学期に1回、延べ6時間(8教科)行い、その後、授業について研修会をもった。以前は、個々の教師や教科で実施していたが、学校全体としての取組にしたのは今年度が最初である。授業者は、指導主事の指導を受けたり、授業の展開の工夫をしたりして中身の濃い授業となった。また、授業を参観する者も、自分の授業方法の見直しとともに、自分の授業時とは異なる生徒の反応を見ることができ、有意義なものであった。授業後の研修では、授業者の発問の仕方や、生徒の反応などについて活発な意見の交換がなされた。

1学期(1年)

6月5日(木) 6限目2クラス(国語・数学)

国語は習熟度別少人数授業

6月9日(月) 6限目2クラス(理科・社会)・職員研修(授業研究)

2学期(3年)

9月22日(月) 6限目3クラス(国語・社会・理科)

9月25日(木) 6限目2クラス 公開授業(数学・美術)・研究協議

数学は習熟度別少人数授業

3学期(2年)

1月19日(月) 6限目2クラス(保健体育)

1月22日(木) 6限目2クラス(英語・音楽)・職員研修(授業研究)

英語は習熟度別少人数授業

1月19・22日は校区の小学校の先生方にも授業を公開した。

「授業についてのアンケート」「自尊感情と学力についてのアンケート」を実施

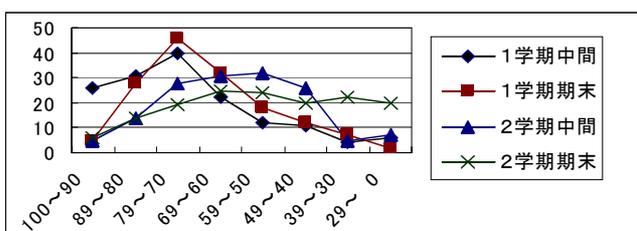
し、生徒の意識と教師の考えとの違いやこれからの授業に対する課題を話し合った。

2. 今後の課題

これらの取組によって、「学力」は本当に向上したのか、向上しているのかを目に見える形で検証するのは難しい問題である。

定期テストの結果を見てみると、

1年国語（平均点 71・68・60・54）

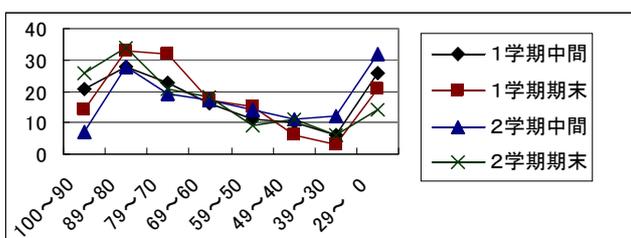


問題の難易度が上がったとき
の中間層の弱さが見られる。

不安定な学力の生徒が多い。

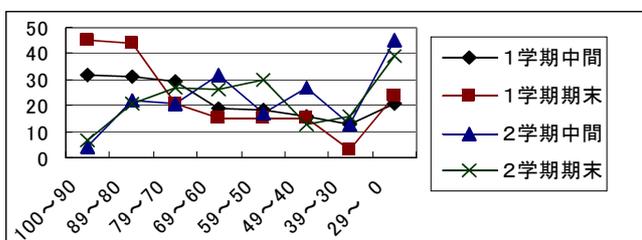
授業ではわかったような気になっているが、理解は不十分である。

2年英語（平均点 62・65・55・68）



どの定期テストもグラフの変化は少ない。全体の中の個人の上下は少ない。中間層の山がない。学力差が広がっている。

3年数学（平均点 64・69・50・53）



中間層の変化は少ないが、問題の難易度により、上位と下位の生徒が影響を受けていると見られる。

低学力傾向の生徒は、どの学年にも20名程度いる。

		2003/2	2003/1	2002/2	2002/1	2001/2	2001/1
授業 内容は	1 よくわかった	21	34	22	25	22	23
	2 まあわかった	45	44	39	39	39	42
	3 ふつう	25	19	29	28	29	27
	4 わからなかった	7	2	6	5	6	5
	5 全然わからなかった	2	1	4	3	4	3

（習熟度別少人数授業アンケートより）

しかし、「授業内容は」という質問に対し、「わからなかった」「全然わからなかった」という回答は、10%以下である。習熟度別少人数授業の学習環境のよさが、まだ学力に結びついていないのが現状ではないだろうか。自尊感情を大切にしながらの授業の工夫が求められている。

各学年20名程度の低学力傾向の生徒に対する指導をどうしていくのか、個別指導も

含めた上での全教職員による支援が必要である。現在は、本校では、定期テスト前の基礎学力講座や、個人ノートによる学習指導、3年生では、自主的な「おはよう勉強会（理科・社会・国語）」、「放課後勉強会（数学）」などの取組を進めているが、それらをさらに発展・充実させていきたい。

来年度から学力の変化を見ることのできるテストの導入も考えている。

より効果を上げるために、どこかの学年に集中して、習熟度別少人数授業を取り組むことも一つの方法として検討していきたい。

学力把握のための学校としての取組

定期テストの分析

習熟度別少人数授業についてのアンケートの実施（1・2学期の終わり）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

7月11日（金）全国人権同和教育研究会分野別研修会

テーマ 「進路学力保障」

場 所 浪速人権文化センター

8月22日（金）桜井市人権同和教育研究会 桜井西中学校区夏期職員研修会

テーマ 「進路学力保障」

場 所 桜井西中学校

8月25日（月）第2回奈良市教育改革推進フォーラム 分科会

テーマ 推進モデル校の取組「少人数指導」

場 所 春日野荘

9月25日（木）学力向上フロンティアスクール研究発表会

テーマ 「学力向上を目指して」授業公開と研究協議

場 所 若草中学校

1月22日（木）奈良県教育研究所

テーマ 「みんなで進める人権教育研修会」

今年度 教育視察で訪問された学校

7月1日（火）三重県四日市市保々中学校より5名（人権学習）

11月18日（火）宮崎県より6名（校長）

11月27日（木）堺市合同生指部会より30名

11月28日（金）和歌山県海南市立中学校より6名（教頭）

12月12日（金）東京都江戸川区小岩第二中学校より1名

1月27日（火）福井市灯明寺中学校より2名

3月12日（金）千葉県市川市立第四中学校より1名（来校予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	✓	1 4年度からの継続校	
【学校規模】	3学級以下		4～6学級	
	7～9学級		10～12学級	
	13～15学級	✓	16学級以上	
【指導体制】	✓ 少人数指導		T・Tによる指導	
	その他			
【研究教科】	✓ 国語	社会	✓ 数学	理科
	✓ 外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		✓	有	無

英語科学習指導案

1. 指導者 松本 彩恵

2. 指導日時 平成 16 年 1 月 22 日 (木) 第 6 校時

3. 指導学級 2 年 1 組 ゆったりコース (男子 3 名、女子 18 名)

4. 単元名 Lesson9 Landmines and Children, New Crown English Series 2

5. 単元の目標

- 1 地雷とはどのようなものか、また地雷がその土地の子どもたちの生活にどのような影響を与えているかを知り、平和の尊さを考える。
- 2 文字という伝達手段について改めて考える。
- 3 be 動詞 + 過去分詞 (受け身形の文) の文の意味がわかり、初歩的運用ができる。

6. 単元の展開計画

- 第 1 時: by のない受け身形「～されます (されました)」の理解と教科書 Section1(P.70)の読解 (本時)
- 第 2 時: 教科書 Section1(P.71)の読解
- 第 3 時: by のない受け身形の疑問文と答え方の理解と教科書 Section2(P.72)の読解
- 第 4 時: by のつく受け身形の理解と教科書 Section3(P.73)の読解
- 第 5 時: 受け身形のまとめと練習 (教科書 P.74～75)

7. 本時の目標

- 学習目標: 1 be 動詞 + 過去分詞 (by のない受け身形) の表現が理解でき、初歩的運用ができる。
2 地雷に関する理解を深める。
- 行動目標: 1 be 動詞 + 過去分詞 (by のない受け身形) の文の意味がわかり、書くことができる。
2 地雷に関する質問に答えることができる。

8 . 本時の指導展開計画

	学習内容・学習活動	指導方法・留意点	評価・資料
復習 10分	1、2年既習内容を復習する。	プリント「ビートイングリッシュ」を使用する。 ・早くできた生徒に黒板に答えを書かせ、それを使って答え合わせをする。 ・間違ったりわからなかったところは必ず正しい答えを記入させる。	*「ビートイングリッシュ」のプリント ・黒板を見て答え合わせをさせる。回収して教師がもう1度確認する。必要があれば次回解説をする。
導入 15分	基本文の学習。 「彼らは空に大きい鳥を見ます。」を英語にしてノートに書く。これを受け身形にしたものをノートに写す。 They see large birds in the sky. Large birds are seen in the sky. ワークで受け身形の練習をする。	「受け身」という概念をまず説明し、受け身形の作り方を教える。 ワークで、練習問題をさせる。 ・ある程度の数の生徒ができるまで時間をとるが、あまり待ちすぎない。	
展開 20分	教科書 P.70 本文 Listening。 CDを聞く。(2回)	CDを使って本文を聞かせる。 ・教科書はなるべく見ないでどんな内容か考えさせる。 ・聞こえてきた内容を言わせる。	机間巡視 * バーコードリピーターを使用する。
	新出単語の学習。 CDの後に続いて単語をリピートする。(2回) 意味の確認。ノートに新出単語を書く。	・しっかり声を出させる。 ・単語とその意味をノートに書かせる。	* バーコードリピーターを使用する。 * 単語の表
	本文 reading。 教師の後に続いて、本文を声に出してリピートする。(2回)	・しっかり声を出させる。	机間巡視
	本文読解。 ノートに本文の意味や解説を書く。	本文を1文ずつ黒板に書く。 生徒を当てて本文の意味を答えさせる。 大事なポイント(受け身形の文)を明確にする。	
まとめ 5分	地雷に関するワークシートをする。	ワークシートを配り、答え合わせをする。 地雷のおそろしさ、現実を伝える。	ワークシート

英語科学習指導案

1. 指導者 竹川 澄子

2. 指導日時 2004年1月22日(木) 第6校時

3. 指導学級 2年1組 しっかりコース(男子13名、女子3名)

4. 単元名 Lesson9 Landmines and Children, New Crown English Series 2

5. 単元の目標

- 1 地雷とはどのようなものか、また地雷がその土地の子どもたちの生活にどのような影響を与えているかを知り、平和の尊さを考える。
- 2 文字という伝達手段について改めて考える。
- 3 be 動詞 + 過去分詞(受け身形の文)の文の意味がわかり、初歩的運用ができる。

6. 単元の展開計画

- 第1時: by のない受け身形「～されます(されました)」の理解と教科書 Section1(P.70)の読解(本時)
- 第2時: 教科書 Section1(P.71)の読解
- 第3時: by のない受け身形の疑問文と答え方の理解と教科書 Section2(P.72)の読解
- 第4時: by のつく受け身形の理解と教科書 Section3(P.73)の読解
- 第5時: 受け身形のまとめと練習(教科書 P.74～75)

7. 本時の目標

- 学習目標: 1 be 動詞 + 過去分詞(by のない受け身形)の表現が理解でき、初歩的運用ができる。
2 地雷に関する理解を深める。
- 行動目標: 1 be 動詞 + 過去分詞(by のない受け身形)の文の意味がわかり、書くことができる。
2 地雷に関する質問に答えることができる。

8. 本時の指導展開計画

	学習内容・学習活動	指導方法・留意点	評価・資料
復習 5分	出欠の確認 忘れ物チェック あいさつ	・英語学習の雰囲気を作る	
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・新出語句の学習 ノートに新出単語を書く。 新出語句の発音練習 ・過去分詞の学習 <p>基本文の学習。 「私たちはサッカーを愛している。」を英語にしてノートに書く。これを受け身形にしたものをノートに写す。 { We love soccer. { Soccer is loved in the world. 練習問題 をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単語とその意味をノートに書かせる。 ・しっかり声を出させる。 ・英語の動詞には過去分詞という概念があることを理解させる。 ・不規則動詞もおさえる。 <p>「受け身」という概念をまず説明し、受け身形の作り方を教える。</p> <p>練習問題をさせる。 ・ある程度の数の生徒ができるまで時間をとるが、あまり待ちすぎない。</p>	
展開 20分	教科書 P.70 本文 Listening。 CDを聞く。(2回)	CDを使って本文を聞かせる。 ・教科書はなるべく見ないでどんな内容か考えさせる。 ・聞こえてきた内容を言わせる。	机間巡視 *CD プレーヤーを使用する。
	本文 writing。	ノートに本文を書き写す。	
	本文 reading。 教師の後に続いて、本文を声に出してリピートする。(2回)	・しっかり声を出させる。	机間巡視
	本文読解。 ノートに本文の意味や解説を書く。	生徒を当てて本文の意味を答えさせる。 大事なポイント(受け身形の文)を明確にする。	
まとめ 5分	地雷に関するワークシートをする。	ワークシートを配り、答え合わせをする。 地雷のおそろしさ、現実を伝える。	ワークシート